

# スポーツと セクシュアル・ マイノリティ



性の多様性がさまざまな場面で取り上げられるようになった時代の中で、新型コロナウイルスが世界にまん延した影響で、来年に延期される東京2020オリンピック・パラリンピック。

この機会に、スポーツの世界とジェンダーについて研究されている現日野市男女平等推進委員で東京都立大学ダイバーシティ推進室特任研究員の藤山新さんに「セクシュアル・マイノリティとスポーツの関係」を寄稿いただき、3回にわたり掲載します。

ID 1015892 男女平等課 ☎584-2733 FAX 584-2748

## Vol.1 「スポーツとセクシュアル・マイノリティに関する諸課題」

「LGBT」という言葉の普及に象徴されるように、いわゆるセクシュアル・マイノリティについての人々の認識は、近年急速に広がりつつあります。スポーツの世界も例外ではなく、2016年に開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックにおいては、セクシュアル・マイノリティであることをオープンにして競技に参加したアスリートが50人を超え、過去最多となりました。また、開会式では有名なトランスジェンダーのモデルがブラジル選手団を先導したり、競技会場で同性パートナーが公開プロポーズをする姿が話題となるなど、オリンピックという世界的なメガ・スポーツイベントの舞台において、セクシュアル・マイノリティの当事者が活躍する場面がいくつも見られました。

しかし、スポーツは多くの場合、男性と女性に分かれて競技を行っていることや、いわゆる「男らしさ」イメージと強く結びつきやすいことなどもあって、セクシュアル・マイノリティ当事者にとっては困難を感じる場面が少なくありません。

例えば、血液中のテストステロン(男性ホルモンの主成分)の分泌量が一定の数値よりも高い女性アスリートの場合、現在のルールでは、女性として競技に参加することができない種目もあります。また、トランスジェンダーのアスリートの場合、FtM(身体は女性でアイデンティティは男性)のアスリートは無条件で男性として競技に参加できる一方で、MtF(身体は男性でアイデンティティは女性)のアスリートは、血液中のテストステロン値を一定以下に保たなければ、女性として競技に参加することはできません。また、ルールとしては参加可能であっても、対戦相手や観客など、周囲から批判の対象となり、結果として競技に参加できないケースも少なくありません。

このほか、特に男性同性愛者に対するバッシングが一般社会よりも非常に強いことなど、セクシュアル・マイノリティ当事者はスポーツの場面でさまざまな困難に直面しています。こうした状況をいかに変えていくことができるのか。スポーツにおける公平性と、性の多様性を尊重する姿勢とはいかにして両立することが可能なのか。スポーツがすべての人のものであるためにはどうすればよいのか。東京2020オリンピック・パラリンピックを控えた私たちは、一緒に考えていく必要があるでしょう。



ふじやま しん  
藤山 新

・東京都立大学ダイバーシティ推進室特任研究員  
・第8・9期日野市男女平等推進委員(2018年7月から)  
(略歴)世田谷区立男女共同参画センター職員、復興庁男女共同参画政策調査官を経て2015年4月より現職。スポーツとジェンダー、特にセクシュアル・マイノリティとスポーツの関係をテーマにした研究を行う。公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ指導に必要なLGBTの人々への配慮に関する調査研究」に研究班員として参画し、『体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン』の作成に携わる。主な著作に『よくわかるスポーツとジェンダー』(共著、ミネルヴァ書房)、『データで見るスポーツとジェンダー』(共著、八千代出版)など。

次回は広報ひの1月1日号に掲載予定です

# 令和元年度のごみ量を報告

## みんなでごみゼロ社会を目指そう!!

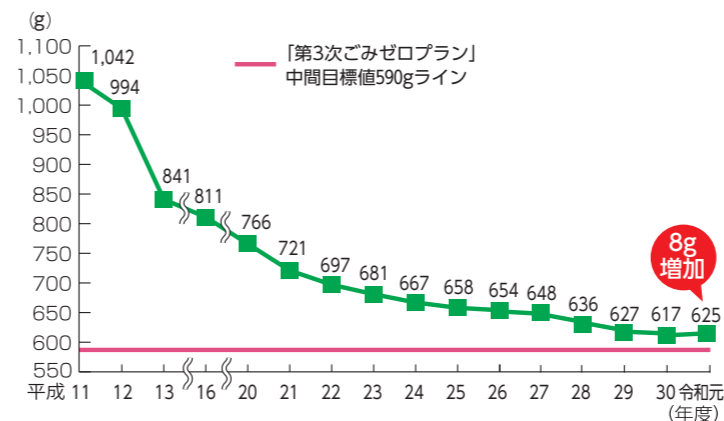
ID 1010813

☎ごみゼロ推進課 ☎581-0444

日野市のごみ量などを報告します。  
日野市の1人1日当たりのごみ排出量(ごみと資源物の合計)は625gで、多摩地区30市町村中第5位となりました(平成30年度は第4位)。

市民の皆さまには引き続き、ごみになる不要な使い捨て製品などは購入しないことや容器包装お返し大作戦などの取り組みによるごみ減量へのご協力をお願いします。

## 1人1日当たりの排出量は625g ～平成30年度比8g増加



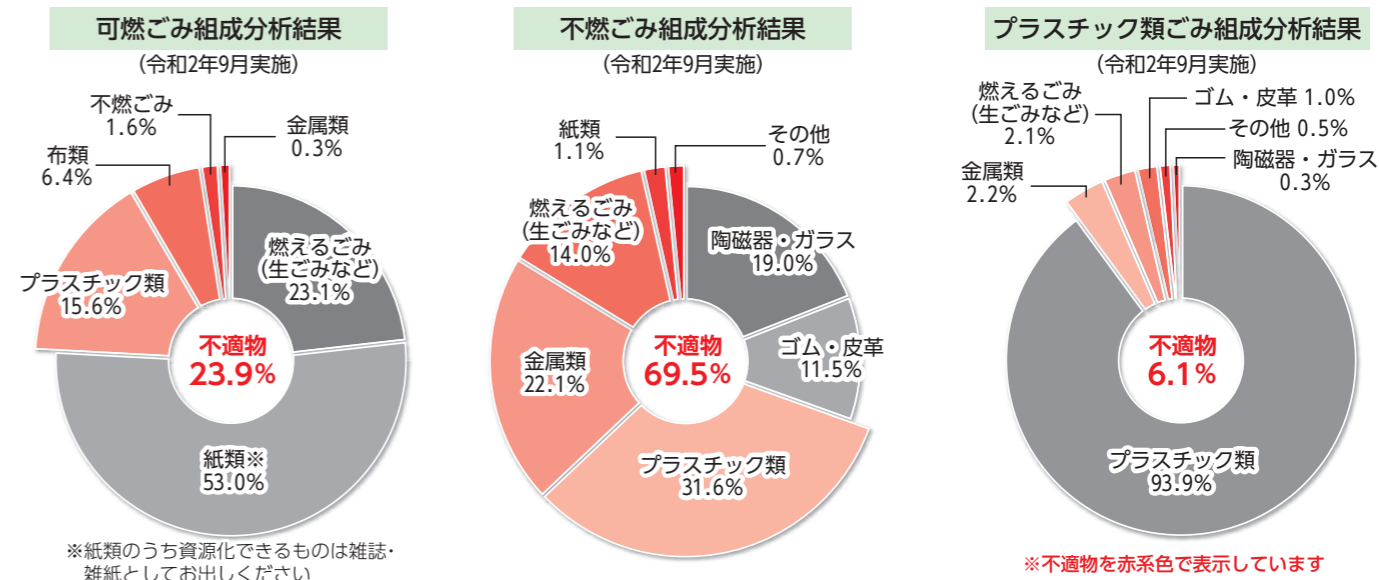
市民1人1日当たりの排出量は625gで、平成30年度に比べ8g増え、多摩地区全体でも2.2gの増加となりました。消費税率の改定や新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての外出自粛による断捨離などの影響もありますが、第3次ごみゼロプランの中間目標として掲げた令和8年度の排出量590gまで、あと35g減らさなければなりません。市民の皆さまには、引き続きごみ減量にご協力をお願いします。



レジ袋を1枚断るだけでも約10g削減できます

## 分ければ資源・混ぜたらごみ! 分別を徹底し、ごみを減らそう

収集車から無作為にごみを抽出し、そのごみの種類と割合を調査した組成分析結果です。適切に分別・資源化すれば可燃ごみや不燃ごみ、プラスチック類ごみの量を大幅に削減することができます。ごみを減らし、資源化を進めるためにも汚れを取り除き分別の徹底にご協力をお願いします。



※紙類のうち資源化できるものは雑誌・雑紙としてお出してください

※不適物を赤色系で表示しています

## ごみを多く出さない生活を

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛などから、家庭内の日常的なごみに加え、不用品整理などによるごみが増え、**昨年度よりさらにごみ量が増加しています。**

一方、毎年年末は新しい年を迎えるために大掃除を行うなど、ごみ量が増加する傾向にあります。

**このままごみ量が増え続け、処理能力が飽和状態になれば、他の民間施設で処理を行うなどの新たな費用負担が発生することもあります。**

外出自粛期間中に不用品の整理を済ませた方は、年末はなるべくごみを多く出さないようにご理解とご協力をお願いします。

	総ごみ量(t)	1人1日当たりの排出量(g)
令和2年4月～10月	25,706	642.3
平成31年4月～令和元年10月	25,043	628.2
増加量	663	14.1

※総ごみ量とは、ごみ・資源すべての収集した量  
※1人1日当たりの排出量は、総ごみ量÷人口(10月1日現在)÷日数(214日)で算出